

1. 科目名 (単位数)	国際保健学入門 (2単位)	3. 科目番号	EIJP3161								
2. 授業担当教員	鈴木 路子・山本 静雄・神宮 直人										
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	この授業では、教育学専攻で開設されている「衛生学、免疫学概論、病原微生物学等」などが基礎となる。「国際保健学入門」は国際教育専攻の関連科目である。										
7. 講義概要	フィールド、統計解析等取得されたデータは様々に利用され活用が図られている。しかし、データの収集過程、個別データの持つ意味等は研究者間でも認識に欠けることもあり、この認識を高め、個別データの成り立ち、重要性を深く認識させる。そのツールとして国際標準規格(ISO)を折に触れ授業に取り入れ、世界各国のデータ収集方法、採取方法の違いを理解させ、ISOを理解したうえでデータの信頼性、妥当性を判断させる。その比較材料として、隣国中国、韓国等の大気汚染等の現状と健康影響の関係、ASEAN諸国の水質汚濁問題等の認識を新たにさせる。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題と健康影響は切り離せない現状を踏まえ、個別データの持つ意味を把握できるようになる。 2. データは活用する以前に収集過程をしっかりと認識し、試験計画、試験条件、試験装置、評価解析等には標準方法が重要であるとの認識を醸成させる上から、ISO9001, ISO14001, ISO/IEC17025に基づく理解度を深め、国際人としての認識を高めることができるようになる。 3. フィールドデータの収集方法、計画の重要性を認識できるようになる。 4. フィールド測定に関与させ、簡易な測定技法を紹介し、実践できるようになる。 										
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 日本(留学生は、各自国)の保健医療の国際協力について調べ、現状と課題を考え、論述せよ。 ② 国際機関を通じた協力(国連、WHOなど)について調べ、途上国に援助の必要性について、論述せよ。 ③ 21世紀は、感染症の時代であるといわれたが、グローバル化した今日、環境問題と疾病罹患状況の把握は、必要不可欠である。あなたの将来を見据えて、どのような取り組みに専門家として、取り組んでゆかについて、考え、レポート課題として、提出せよ。 										
10. 教科書・参考書・教材	鈴木庄亮監修、辻 一郎、小山 洋編集『シンプル衛生公衆衛生学 2019年度版』 医歯薬出版、2019。										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題と健康影響は切り離せない現状を踏まえ、個別データの持つ意味を把握できるようになったか。 2. ISO9001, ISO14001, ISO/IEC17025に基づく理解度を深め、国際人としての認識を高めることができるようになったか。 3. フィールドデータの収集方法、計画の重要性を認識できるようになったか。 4. フィールド測定に関与させ、簡易な測定技法を紹介し、実践できるようになったか。 <p>○評定方法</p> <table border="0"> <tr> <td>個別目標設定予実管理票(仮称)の提出</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>アサインメント</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>日常の授業態度</td> <td>30%</td> </tr> </table>			個別目標設定予実管理票(仮称)の提出	40%	アサインメント	20%	レポート	10%	日常の授業態度	30%
個別目標設定予実管理票(仮称)の提出	40%										
アサインメント	20%										
レポート	10%										
日常の授業態度	30%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>この科目では、恐らく私たちが経験したことのない苛酷な生活を強いられている人びとが同じ地球上に生存していること、その人たちの多くが貧困や心身の疾患等々に悩んでいる現実を把握してほしい。その上で、これらの問題に対して自分に何ができるか、また教育者になった時にこれらの問題をどのように子ども達に教えるかを考えてほしい。</p> <p>この科目の履修に当たっては、他の科目と同様に、主体的に取り組み、課題を提起して下さい。(成績評価についてお願い)</p> <p>以下の方法で成績評価を行いたいのでご了承くださいようお願いいたします。</p> <p>A) 対面授業を実施した場合の成績評価は、上記11.によって行う。</p> <p>B) オンライン授業を実施した場合の成績評価は、出席を40%、課題レポートを60%で判定する。</p> <p>C) 上記A)とB)の両方で授業を実施した場合には、実施した割合に基づいて両方の評価基準を採用する。</p>										
13. オフィスアワー	別途指示します。授業前後、また授業中でも、各自の疑問に答えます。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	国際保健とは。開発途上国の健康問題(鈴木担当)	事前学習	教科書 p. 339, pp. 344~346 と資料を読んでおく								
		事後学習	国際保健の意義についてまとめる								
第2回	世界の健康課題の概要(人種、民族、宗教、貧困など)(鈴木担当)	事前学習	教科書 pp. 339~343、資料を読んでおく								
		事後学習	開発途上国の健康問題について整理する								
第3回	「国際保健医療協力」に関連する組織・機関(国際機関、日本政府機関、JICA、大学・研究機関、NPO・NGO等々)(鈴木担当)	事前学習	教科書 pp. 346~352、資料を読んでおく								
		事後学習	国際的な支援組織や機関を整理する								
第4回	開発途上国の健康問題の現状(妊産婦死亡、乳児死亡、暴力、健康管理等々)(鈴木担当)	事前学習	教科書 pp. 344~346、資料を読んでおく								
		事後学習	開発途上国の健康問題についてまとめる								
第5回	子どもと女性に関わる諸問題の概要(死亡の原因、死亡率、教育、暴力等々)(山本担当)	事前学習	資料を読んでおく								
		事後学習	子どもと女性に特有な健康障害についてまとめる								

第6回	感染症(1) 性感染症(HIV/エイズ:感染予防、治療の課題、母子感染予防等々)(山本担当)	事前学習	教科書 p. 89、資料を読んでおく
		事後学習	HIV/エイズについてまとめる
第7回	感染症(2) 結核(世界の現状、診断・治療の課題、対策等々)(山本担当)	事前学習	教科書 pp. 87~88、資料を読んでおく
		事後学習	開発途上国と自国における結核の予防対策と患者数の比較をしてまとめる
第8回	感染症(3) マラリア(世界の現状、感染予防、治療の課題、対策等々)(山本担当)	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	マラリアの感染経路、予防対策についてまとめる
第9回	種々の環境問題(住居、水・衛生設備、労働衛生、汚染水、大気汚染等々)(神宮担当)	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	開発途上国の環境問題の対策に対して自分のできることを考え、列記しなさい
第10回	健康問題(1) 水・土壌・空気などに含まれる有害な化学物質、アルコール、ドラッグ、タバコ等々(神宮担当)	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	アルコール、ドラッグやタバコなどをやめさせる方策を考えて簡潔にまとめなさい
第11回	健康問題(2) 健康管理、がん、心臓疾患、脳卒中、呼吸器疾患等々(山本担当)	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	開発途上国と自国における左記の疾患の主な違いを整理しなさい
第12回	健康問題(3) 下痢症、暴力と虐待、精神保健、傷害等々(山本担当)	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	開発途上国で下痢症を防止する簡単な方法について考え、まとめなさい
第13回	・インドネシアでの人間生態学調査(1) 人類の生活生存と環境 ・インドネシア人類生態学調査(2) インドネシア調査地の実態、1980年代(鈴木担当)	事前学習	・都市化人工化の中で、環境の急激な変動の中での子どもの環境適応能の発達を考える ・現地調査の方法とデータ
		事後学習	・授業後にとらえた国際保健のあり方を考える ・1980年代—2000年以降の調査地を比較する
第14回	・インドネシア人類生態学調査(3) 日本の学校保健とインドネシアのそれを比較し、支援の在り方を考える ・世界の児童の成長と環境を考える—国際育児比較と環境教育—(鈴木担当)	事前学習	・開発途上国への教育支援、JICAの事業計画 ・グローバル化した人類世界での課題を考える。子どもの権利条約の再検討
		事後学習	・健康教育の国際化を授業での学びから検討 ・本時の授業と第13~14回の学びを整理
第15回	鈴木・山本・神宮担当:君たちはどう生きる—各自専門家としての学びを語る	事前学習	15回の授業をまとめ、各自の専門性を考える
		事後学習	ディスカッション後の国際保健学入門の再整理